

平成20年10月26日

立沢里山 里山新聞 第13号



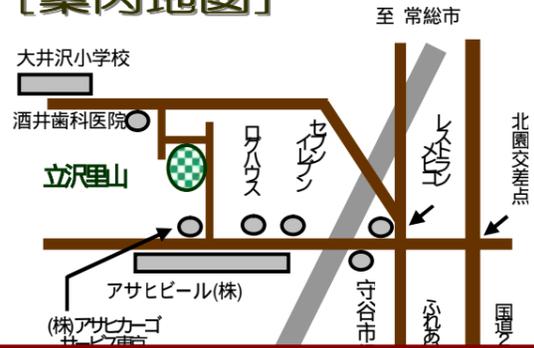
発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
 問い合わせ先：事務担当
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 222）
 立沢里山ホームページ
<http://www.geocities.jp/tatuzawasatoyama/>

ボランティア募集
 あなたも一緒に楽しみましょう!

～目次～

- 1 北守谷夏まつりに出店
- 2 洪水対策
- 3 稲刈り
- 4 脱穀作業、収穫祭
- 5 秋の恵み、紅葉：マコモ、タコノアシ
- 6 実りの秋：どんぐり

【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします

denen21@hb.tp1.jp

清野



1 北守谷夏まつりに出店

今年も立沢里山の会恒例の北守谷夏まつりに出店しました。

8月23日(土)23日(日)の両日です。あいにく天気予報は大雨とのこと。人出が少ないことも考慮して仕入れ量を検討し、直前の午前中に焼きそば資材などの準備作業をしました。

麺、野菜、肉などの素材を一回毎の分量に予め準備しておいたことが、あとで迅速な作業に効果を発揮しました。

午後、天気は何とかかなりそうとの判断で早速テント張り、機材などの設営を行い、3時前から出店開始です。

今年は燃料などが高騰していることから「焼きそば」の販売価格を50円値上げして250円としました。

日中はほどほどの様子でしたが、だんだん雨が強くなり子供たちの吹奏楽は残念ながら中止という事態になりました。さらに夕方、1時間早く切り上げるとの本部からの指示がきました。

ところが焼きそばは夕食時の夕方から勝負どころで、雨にもかかわらず行列ができるほどの盛況具合です。

ついに時間切れとなり、中止の仕切りのために本部が電源を切ったことから一時真っ暗闇になりました。しかしテント前にはまだ並んでいる人がいるということで、スタッフは暗闇の中で作業を継続することにしました。

皆、毎年何十回と焼きそばを焼いているベテランぞろい、職人技術とプロ根性を発揮して手探りで焼き続けました。幸いしばらくして電源も復帰し、結果、準備した素材はほぼ焼き上げて初日を終了することができました。

また、今年は「里山の会」らしいことに挑戦してみようということで、竹炭と炭アートの販売を



試行してみました。材料は自然博物館内の炭窯で焼いた炭をダンボール一杯に確保し、加工しました。

炭アートは初心者の手作りですが10数個試作し300円～500円で値段を設定しました。竹炭は説明ビラを作成して3片で100円としてみました。今年は初めてのなのでどうなるか市場調査が主な目的です。

結果として炭アートは数が少なかったので何とか裁けましたが、もっと客の注目を得るような素材(クリ、ひょうたん、松かさ)やデザインに工夫が必要と思いました。竹炭は通りかかる人のほとんどは意味が分からないようでした。そのために竹炭の効果や使い方の説明ビラも作っておいたのですが

これ何?と質問してくる人は説明を聞くと、その多くが買ってくれました。効果や使い方のPRをどうするかがポイントとわかりました。

二日目は「焼きそば焼き」もちょっと工夫して、鉄板を正面に出して「焼きそばの実演」をパフォーマンスすることにしました。舞台裏で缶ビールをのんびり飲んでいる暇はなくなりましたが、人前に出るとスタッフの焼き方にも自然と力が入ります。

二日目は初日よりさらに雨が強くなり、夕方かなり早めの終了となりました。しかし、焼きそばは偉大です。雨にも負けず例年と変わらないほどの人が大勢買いに来てくれました。

天気は最悪でしたが、焼きそばの威力と農作業で培った里山の会のチームワークを実感することができました。

売上の総額は以下のとおりですが、悪天候を考えると予想以上の善戦と思います。

本当にご苦労様でした。

1日目	189,450	2日目	166,250
		合計	¥355,700

2 洪水対策

今年は地球温暖化の影響か、局部的に集中豪雨が頻発しているようです。

里山も小川が決壊して田んぼの畦や水路が壊されたりして、その度に何度も盛り立て修復作業を行いました。

前号で記載したように洪水を考慮して例年より取水位を

下げているのですが、想定を上回る降雨強度でした。

元々が湿田なので、河川の水位が水田と同じ位にまで上がり、海ようになってしまうこともありました。

二度ほど堰の周辺で土手を大きく越流するほどの大雨となり、堰本体は問題ありませんでしたが、堰上下流が大きく洗掘されたために、底が抜けてしまいました。

大きな被害には至りませんでした。毎年の修復作業も大変なので畦などは非かんがい期にしっかりと修復する必要があると実感しました。



河川水位が田面と同じまで上昇



固定堰の下が潜掘漏水



3 小学校稲刈り体験学習

今年は大雨や酷暑と変動の激しい気象状況でしたが、子供たちが植えた稲はたくましく成長しました。

9月13日(土) 20日(土)とオダ掛けや周辺草刈りなど子供たちの稲刈りにむけて準備作業を行いました。

その際に大人の田んぼの稲刈りをしたところ、実はしっかりと入って大丈夫の様子です。

9月26日(金)心配していた天気も何とかもちそうで、例年どおり御所ヶ丘、松前台、大井沢の3小学校の5年生200人が元気に集合しました。

一通りの説明を聞いた後、早速鎌を片手に稲刈り作業です。

今年は集中豪雨の際の巻き風で稲が四方八方に倒伏してかなり刈取りにくい状態です。また排水不良で足場が悪く、泥だらけになりながら、かなり苦勞する場面もありました。刈る人、運ぶ人、おだ掛けする人など皆で協力して二時間ほど、チームワークで無事終了しました。

稲刈りが終わり、静かになった田んぼには雉の親子などの鳥たちが沢山やってきて、落ち穂をついばんでいました。



倒伏し、ぬかるみで大変です



ご苦勞様、無事終了です

4 脱穀作業、収穫祭

10月5日(日)稲刈りからは少し早めですが今後の天気模様を考えて、午後から脱穀作業を行いました。

今年の収穫量は昨年より少し増えて275kg、4俵半とまずまずでした。

例年通り小学校では収穫祭などで試食する予定です。

子供たちが自分で田植えし、稲刈りした米なので一味違う経験ができると思います。

松前台小学校の収穫祭は11月18日(火)10時45分からの予定で、案内が来ています。



5 秋の恵み：マコモ、

水田わきの「マコモ」がちょうど食べごろとのメールをもらって早速見に行ったところ、根元がぶっくらと膨らんでいい感じでした。

数本収穫して自宅に持ち帰り、料理してみました。野菜炒め、チャ-ハンなど何にでもあいます。タケノコとアスパラの間のようなシャキッとした食感です。

食物繊維が多く便秘に、カリウムも沢山含んでおり高血圧、腎臓病などに効くということで、最近注目されている食材です。

紅葉：タコノアシ

また、小川の袖部に「タコノアシ」も真っ赤に紅葉し、まさしく「ゆでだこ」状態、今が見ごろです。

確かに、今の時期に観ると上手に名前をつけたものだと感心します。

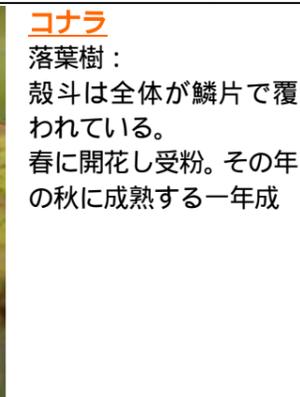
全国的に絶滅危惧種に指定されており、来年以降も元気に増えてほしいものです。(10月5日撮影)



6 実りの秋：どんぐり

(里山日記：第29号から、新田)

ブナ科の木の実をどんぐり(団栗)といいます。どれもお椀のような殻斗(カクト)に包まれています。稲作が日本に伝わる前、縄文時代にどんぐりは重要な主食の一つで、各地の縄文時代の遺跡からはどんぐりを貯蔵した穴が見つかっています。当時、北日本のほうが西日本に比べて住みやすかったのも、植生が豊かで、このような木の実が多く取れたからだと考えられています。韓国ではアク抜きした粉が食材として使われていて、日本でも韓国食品店で購入可能です。

 <p>コナラ 落葉樹： 殻斗は全体が鱗片で覆われている。 春に開花し受粉。その年の秋に成熟する一年成</p>	 <p>クヌギ 落葉樹： 殻斗は細長い鱗片で覆われている。 春に開花し受粉。次の年の秋に成熟する二年成</p>
 <p>シラカシ 常緑樹 殻斗は輪を積み重ねた縞模様で覆われている。 春に開花し受粉。その年の秋に成熟する一年成</p>	 <p>マテバシイ 常緑樹 殻斗は全体が鱗片で覆われている。春に開花し受粉。次の年の秋に成熟する二年成</p>